



大上地区社協も 防災訓練に積極的に参加する



綾瀬市では、9月2日（日）に相模トラフを震源地とする震度6強の地震が発生したという想定で、防災訓練を実施しました。

この防災訓練に大上自治会は市と一体となって実施しましたが、大上地区社協も自治会の要請を受けて、要援護登録者の安否確認を担当する形で積極的に参加しました。

当日は、午前9時に防災無線で“訓練地震発生”の放送を受けて、地区社協の会員は、まず自分と家族の安全を確認した後、会員が担当する要援護登録者宅を1軒1軒訪ねて安否を確認した上で、所属の理事へ結果を報告。理事は所属する区の防災長（区長）へ報告し、防災長から大上対策本部へ報告が行って午前10時10分に地区社協の一連の訓練は終わりました。

今回の訓練の結果、要援護登録者225名のうち、安否確認が出来たのは187名の83%で、留守等で確認出来なかったのは38名でした。

今回初めて実施した安否確認について、市ノ澤会長は次のように語っています。「会員の皆様のご協力のお陰で要援護登録者の方々の方々の安否確認が予想以上にできたことに、まずもってお礼申し上げます。これからも、この体験を生かして更に充実した活動を展開していきたいと思しますので今後ともご協力下さいますようお願い致します。」



要援護登録者宅を訪ねて、安否確認する地区社協の会員

健全育成会の行事に協力

大上地区青少年健全育成会が主催する夏休み中の恒例行事「夏休み親子ふれあいダンボールで隠れ家を作ろう・映画会」は、今年も8月1日（水）午前9時30分から、大上自治会館で開催された。

この催しは、自治会を始め青少年指導員、補導員、民生委員・児童委員や小中学校のPTA、そして大上地区社協も協力して行なわれる行事で、今回も子ども95名、保護者やスタッフなど55名の150名が参加して行なわれた。

当日は、子ども達が自治会館ホールで映画を観たり、猛暑の中を会館前の駐車場で5班に分かれて



猛暑の中で隠れ家を作る

段ボールでみんなと協力して隠れ家を作って楽しむ一方、スタッフが準備したソーメンやスイカを食べて、真夏の昼のひと時を楽しんでいました。

北の台中学PTAの 夜間パトロールにも協力

北の台中学校PTAは、校区の大上、蓼川、寺尾北地区内の夜間パトロールを毎年実施しているが、今夏も大上と蓼川の地区社協と青少年健全育成会の協力を得て、8月20日（月）の午後6時30分から約1時間にわたって行なった。

当日は、校区を4つの班に分けて実施。大上地区は2つの班で、第1班はクリエイト・セブンイレブン・ローソン・大上ゆめ公園・大上公園を、第2班は北の台中学・フードワン・風車公園・ダイエーのコースで巡回した。

各班には先生とPTA役員を中心に、協力団体の方々が出かけた10~12名の編成で、コース内の要所をチェックしながら巡回して異常のない事を確認していました。



校区内をパトロール